

カエデ

カエデ科 ACERACEAE (APG分類では ムクロジ科 SAPINDACEAE)

属名 **Acer** [アケル] カエデ属英米発音 エイサー [AY-ser]

属名由来 命名 リンネ、1753年。紀元1世紀半ば、古代ローマの『博物誌』(G. プリニウス)に「カエデ」を意味する acer [アケル] に関する記述がある。▼『植物の種』(リンネ)には葉の形状に関する諸文献の引用が記されており、「葉は掌状に5裂または3裂し、各片は不同で、細長く、先端はとがって鋭く、鋸歯がある」などの説明がある(第2巻、753)。▼形容詞 ācer [アーケル]には「鋭い」の意味で、属名は葉の形状に因ると考えられる。▼ギリシア語に語源は見当たらない。『植物誌』(テオプラストス)にはカエデ類としてスペンダムノス(σφένδαμνος <sphendamnōs>; *A. monspessulanum* アケル・モンस्पessラヌム)、デュギア(δύγία <dygia>; *A. campestre* アケル・カムペストレ; コブカエデ)、グレイノス(γλείνος <gleinos>; *A. creticum* アケル・クレティクム)、クリノトロコス(κλινότροχος <klinotrokos>; *A. pseudo-platanus* アケル・プセウド-プラタヌス)などの記載がある。

分布 温帯。山林に多く、おもに北半球。東南アジアに集中し、日本には約20種が確認されている。ヨーロッパ、アフリカ北部、北・中アメリカにも自生。

植生 落葉・常緑/小高木・高木。地生。大半は林を形成する。高さ3~20m。

メモ 種の数: 150。代表的な紅葉の樹木として愛されてきた。カエデ材は家具のほか、バイオリンやビオラなどの裏板、ピアノ、ファゴットなど楽器に使われてきた。種により樹液が食用になる。メイプルシロップはおもにサトウカエデ(アケル・サッカルム *A. saccharum* Marshall, 1785)の樹液を煮詰めた糖蜜である。メグスリノキ(アケル・マキシモウィクツィアヌム *A. maximowiczianum* Miq.)のような薬用種もある。

茎・幹 直立。樹冠は上部で広がる。

葉 長い葉柄があり、掌状脈か羽状脈の単葉、または数枚の小葉からなる複葉。葉の切れ込みは5~7裂がよく見られ、3裂、9裂、羽状もある。また、無裂種もある。緑色で秋に紅(黄)葉し、落葉。紫葉や斑入り品種もある。[出方・配列] 対生。[単葉/複葉・切れ込み] 掌状深裂、掌状浅裂。[葉縁] 全縁、波状縁、鋸歯縁。[葉身] 円形、卵形、広卵形、長楕円状披針形、楕円形、広楕円形、倒卵形、披針形、長楕円形、扇形、心臟形。

花 黄緑色で小さく、雄花と両性花を雑生。雄花と両性花は同一株か、または別株の場合がある。花後、2つで対になった翼状の実ができる。[花序] 総状花序、房状花序、散房花序、散形花序、穂状花序。[開花期] 早春~春。

光の条件 1 日陰 2 明るい日陰 3 半日陰 4 明るい半日陰 5 直射日光 ※日当たりか明るい半日陰を好む。ただし、西日の直射しだいで幹肌が傷むことがある。

温度性質 1 強耐寒性 2 耐霜性 3 半耐寒性 4 非耐寒性 [耐寒温度] -15℃ [生育適温] 10~25℃

空中湿度 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿ぎみ 5 多湿

土壌湿度 1 乾燥 2 乾燥ぎみ 3 中湿 4 多湿 5 水浸

栽培用土 腐植質に富み、水はけ・保水がよい土。[肥沃度] 肥沃。[用土例] 壤土6+腐植3+砂1

肥料 [元肥] 豊富に。[置肥] 生育期に定期的に。※少量の施肥も可。

植付け・植替え 根が動かない早春が適期。湿潤な梅雨時も可。(1) 植え穴に腐葉土や堆肥を鋤き込む。(2) やや高植えに。根に合わせて枝葉を切り戻し、苗木を置いて土を半分入れ、水を満たす。(3) 水が引いたら土を埋め戻し、灌水。敷草や腐葉土で根元をマルチングし、乾燥を防ぐ。(4) 鉢植えは、鉢に入る程度に根を切り落として植える。

水やり 過乾燥、過湿は不適。鉢植えでは水切れしないように灌水する。

手入れ 樹液の動きだす2月までに徒長枝、絡み枝、胴吹きなどの弱い枝などを枝抜きし、放任で樹形を整える。混み枝は適宜整理し、風通しをよくする。

冬越し 根の浅い若木は腐葉土や敷き草などで根元をマルチングし寒気や乾燥から保護する。鉢植えは凍結を防ぐ。

繁殖 [繁殖方法] 実生(熟ししだい採り播き)。※春播きとする場合は保湿貯蔵した種子を使用。

Acer

カエデ

アケル

Photo 1



よく見られるイロハモミジ (学名: *A. palmatum* アケル・パルマトウム)。1784年 ツェンベリー命名。palma [パルマ] はラテン語で「手のひら」の意。葉はやや小型で、切れ込みが深い。▼日本語の上代語では秋に草木が赤や黄に変わることを「もみつ (毛美都)」と言い、のちに「もみづ」 (紅葉づ、または、黄葉づ) となったとされる。また、その色づいた葉を「もみち (毛美知)」と言った。[撮影 静岡県 浅間大社、2011.12.10]

Acer

カエデ

アケル

Photo 2



イタヤカエデ。葉の切れ込みが浅くて鋸歯がなく、カエルの手に似る。秋は黄色に色づく。▼古代日本ではカエルの手になぞらえ「カヘルデ」と言い、のちに「カエデ」となった。「こもち山若かへるでのみつ (毛美都) まで」(万葉集14巻3494)。▼ツェンペリーが *A. pictum* (アケル・ピクトゥム、1784年) と命名。語源は「彩色した、花やかな・多彩な、きれいな」の意のラテン語 *pictus* による。▼1990年代以降、様々な変種・亜種も確認されている。シロップにも利用される。写真右下円内は房状の花。[撮影 富士山北麓 登山道吉田口2号目、2010.5.22]

Acer

カエデ

アケル



[生育適温] 10~25℃
[耐寒温度] -15℃

空中湿度



明るさ



土壌湿度



植生 温帯の大半は林を形成する。地生。高さ3~20m。

土壌 腐植質に富み、水はけ・保水がよい。[肥沃度] 肥沃。

用土 壤土6+腐植3+砂1

肥料 [元肥] 豊富に。[置肥] 生育期に定期的に。※ 少量の施肥も可。

水やり 過乾燥、過湿は不適。鉢植えでは水切れしないように灌水する。

温度区分	■ 厳寒・寒冷期	■ 冷涼期	■ 温暖期	■ 高温期
温度帯	~ 8/16℃	9/17 ~ 13/21℃	14/22 ~ 18/26℃	19/27℃ ~
季節	冬	→ 早春~晩春 ← 中秋~晩秋	→ 初夏~梅雨 ← 晩夏~初秋	→ 夏、盛夏
光	日当り~明るい半日陰	日当り~明るい半日陰	日当り~明るい半日陰	明るい半日陰
植付け		発根前	梅雨期	
水やり	表土が乾いてから	表土が乾きかけてから十分に	表土が乾きかけてから十分に	表土が乾きかけてから十分に
繁殖		実生		

■ 高温期：1日平均気温23℃以上 (19/27℃~)。寒冷地植物の生育が劣るかまたは困難。【特徴】 夏日、真夏日。/夏、盛夏。

■ 温暖期：1日平均気温20±2℃ (14/22~18/26℃)。熱帯植物が十分に生育可能。【特徴】 光合成のピーク。/初夏~梅雨、晩夏~初秋。

■ 冷涼期：1日平均気温15±2℃ (9/17~13/21℃)。ヤシ、非耐寒植物が生存できる低限域。【特徴】 桜の開花。彼岸。/早春~晩春、中秋~晩秋。

■ 寒冷期：1日平均気温10±2℃ (4/12~ 8/16℃)。非耐寒植物の生存の分かれ目。【特徴】 光合成のほぼ下限。/冬。

■ 厳寒期：1日平均気温5±2℃以下 (~ 3/11℃)。多くの植物の枯死、休眠が見られる温度帯。【特徴】 降霜、凍結、冬日 (霜日)。/冬。

※ 1日の気温較差は平均気温を中心として±4℃の8℃としてある。これは全国主要地点の過去のデータから算出した平均値による。